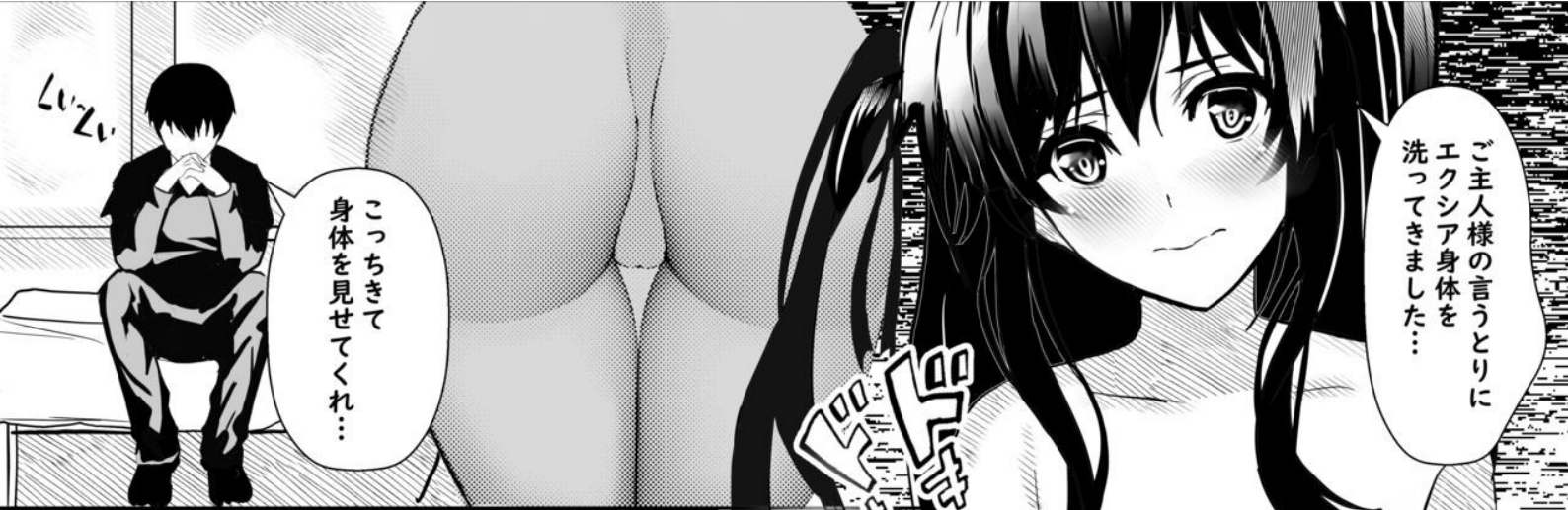


彼女からのプレゼント



彼女からのプレゼント





ご主人様の言う通りに
エクシア身体を
洗ってきました…

こっちきて
身体を見せてくれ…

いゝいゝ



そうか…

わかりました
ご主人様

私はこのような事は
初めてなので粗相のない
ように努めます



安心しろ
俺がリードするから
エクシアは俺に合わせて

今夜は寝かせないから
勤弁してくれよな…

わかりました
ご主人様…

りっくん
朝だぞ起きろ



エクシア!!

えっなに!!



今日の朝食はわた：
パンだぞ!!

りっくん：
おはよう
もう朝だぞ…



何で起こしたんだ

いやだから…
遅刻するって言って…



なっん…で…

学校遅刻するぞ
毎日なんて…



まーでも…
そういうだ事で
おれは寝る…

りっくんが起きないと
私が代わりに永眠
させっぞ♥



よし起きるか!!



どうせエッチな夢
見てたんでしょ?!
寝言いってたし…

それに起ってるしね…

それは生理現象だろ



『名は体を表す』って
ことわざあるけど
絶対嘘だと思う…

わたし冬花
だけと冬
一番嫌いだもん…

いやでも待てよ
私は花のように
綺麗だから
間違ってるのか?!

へえー

ここに一つの矛盾が…



ところで
りっくんはクリスマスの
予定あるの?!

ウチの親
俺をおいて旅行に
行くらしい:

そうなんだ:

ふっ:
私がりっくんの親に
頼んで二人きりにして
もらったのだ:



どうせ:
りっくんも予定ないし
どこか行こうか:

どうせなら
お家でゆっ:

りっくん:

下



クリスマスの
予定あるよ

大切な人を迎えに
いくんだ…

えっ大切な人?!

そうだから
最近バイトも始めた
のもそのためなんだ…

長かった私の
努力がやっと…

石を買うために

石!!

まやか
の
ダイヤ
モンド!!

私の長い長い
サクセスストーリーが
ついに終わるのか

りっくんこれ
バレンタイン

思い返せば
いろいろあったな…

ほい…
ホワイトデー

てかオタクのくせに
毎朝起こしに来る
幼馴染が好意
を持つてるつて
気づけよ…
オタクとか関係なく
人として終わってる
だろ…
あれ…なんで私この人…
考えるのはやめよう





オレの推しの
クリスマス限定の
エクシアを引きにいくんのだ!!

あと完凸させたいし



冬花も当たるように
祈っててくれ



うん!!
知ってた

オレ絶対当てるから

だって
りっくんはりっくんだし!!



バカだな私...

キリン

りっくんの笑顔を
見ると不思議と
怒りもなくなるんだよね



ホント
この人は...

ドキ



え…何で?!



なっ…わけあるか?!
このクソオタクが…**○ね**



こうなったもう
あの作戦しかないわ…

名付けて
推しのコスプレで
イチヤイチャすれば…

オレなんか
やっちゃいましたか…



ナイスパンチ



ズルッ



今だ!!

引かなきや
運営の養分

引かなきや
運営の...

いん...



出ない(泣)

どうしてだよおー
俺なんかしたかな



こうなったら
神様に土下座だ

お願いします神様
どうかエクシアを
私のアカウントに:

きんやああ!!

カチカチ

カチカチ



どきどき

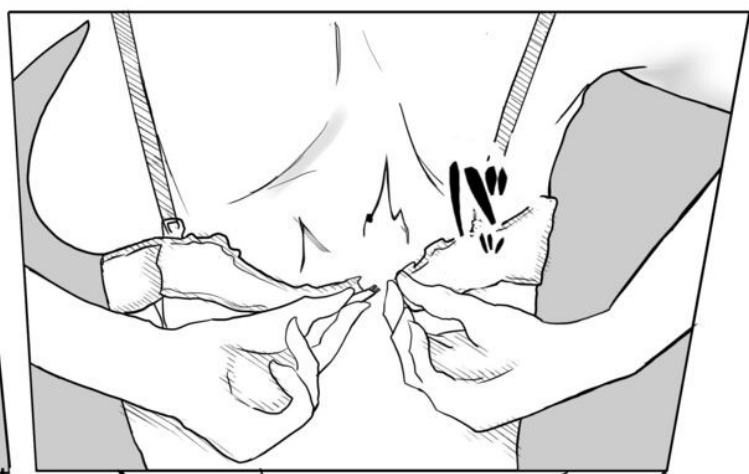
どきどき

どきどき

どきどき

ぐわんぐわん

パンツ



太もも

股間

太もも

股間



神は死んだ：
そもそも自分の力で
引かなきゃエクシアたん
は一生来ないんだ：

引けえ…

引かなきゃ運営の養分だ



私が代わりに
引いて上げますか…
ご主人様…

冬花か…
頼む

えっ…
一回で出た!!

ありがとう…神様

っん…

ご主人様?!



少し顔が赤い様
みたいです

だが…
か…かわいい…
本物みたいだ…



エクシア!

冬花だよな…
何でエクシアの格好してるんだ…

どうかしましたか
ご主人様…
私に御用があるのでは…

私のおでこで
熱を測ってみましょうか…



ヤバイ…
お…胸が…



冬花何してんだよ
その格好…

そして…
近すぎる…

別に大丈夫だから…

ちよっ…
急に動かな…

あっ…ふなッ…



あれ
この流れは

大丈夫
怪我はない

はい…
私は大丈夫です…

もしかして…
もしかする…

ごめん
そういうつもりでは…

そうですか…
それは残念ですね…

何やってんだ
オレは…

えっ!?

っ…ちゅ…んっ…
別に我慢しなくていいんですよ。

あなたは私のご主人様
なので私から私を
ご自由にお使いください。

舌ってこんなにも
絡み合うものなのか…

…はっあ…
ちゅ…んっっん
むっ…っちゅう♡

自然と奥に
入っていく…

私は最初から
こうしたかったですよ
ご主人様♡

キスってこんなにも
気持ちいいの…

どうします…
ご主人様…

このまま私といっしょに
深いお付き合いをしてみ
ませんか…

もう考えたら
負けだ
おれはコイツを
抱きたい…

エクシア最後まで
付き合ってくれるか?!

もちろんです
ご主人様♡

私の身体を綺麗に舐め回してみたくないですか?!

遠慮はいりませんからね…

今にもはち切れ、
そんな魅惑の果実が
そこにあつた…

無味なはずなのに
甘く優しい
味がするのはなぜだろう…

まずは二口…
いただきます…

ずっといじって
いたくなる…

…あっ…んあ…
そんなにちくびを
いじめないでください

ずっと吸っていても
飽きがこないのは
おっぱいの効力なのか…

おれは自問自答を唱えながら
エクシアの乳房を何度も
確かめるように
舐め渡していた…

…っん…あん
吸い尽くしそうな
勢いですね…

っ…あん
私のおっぱいは無く
ならないから
じっくり味わってください…





数回キスを
交わしただけに
こんなにも馴染んで
いる...

…っはあん…ん
ちゅっ…あっ…ん
ちゅ…あは…ん…



おっぱいだけでは
なく上のほうにも
やわらかいモノが
ありますよ…



…っふあ…
激しすぎて身体が
ビクビクしてきた…

…はあ…
だけどいつしよに
気持ちよくなれてるなら
うれしいなあ…

オレも気持ち
良すぎて本能の
ままに求めてしっ
たよ

ご主人様の
おちんちんもう
こんなに硬くなってる♡

…あっそこは…

もうこんなに
ビクビクしてますよ…
おちんちんがうれしが
ってるんですね…

我慢しないで
おちんちんスッキリ
させてくださいね

ああ…
頼むよ…

軽く先っぽを擦るだけで
こんなにも自然の
ローションがでるなんて
素直でかわいいですね♡

ほらほら…
まだまだこれから
ですよ♡
ご主人様♡

…あっそこは…
刺激が強すぎるよ…
…だっ…っめ…んあん…

噴水の用に
溢れてきておもしろい♡



エクシアはオレの
反応を見て先端やカリ首を
入念に舐め渡していた。

れろ
れろ



私の膣に入れる前に
私のお口でご奉仕させて
ください

…あっん…っ



れろ
れろ

どうですか
私のお口おんこは?!



あやあや

…っあ…
そこは…マジで…っやばあ…



ああ…

彼女から送り出される
刺激によりペニスから
我慢汁が溢れだす…
我慢するのに声を
押し殺すのが
精三杯だった!!

おちんちんが熱い
脈を打っているのが
伝わってきます。



次はおっぱいでシゴいてあげますね

どうですか... 私のおっぱい♥ すごいやわらかいでしょ♥



気持ちいですか...♥

あっ...もう

もう...ダツめだ... オレの中から... っあ...あふれ...てるっ...



ダメだ...

意識を保つのに 精一杯で... 気を抜くと... 逝ってしまいっ... そうだっ...

好きな時に 射精してください...

射精る!?

ケッ! ケッ!



私のおっぱいを
感じ取れましたか!!

すごい:
私のおっぱいが
ご主人様の精液で
いっぱい満たされてる

ああっ:
すごい重量感だったよ...



っはあ...ツん

...ちゅっ...ん
はあ...ちゅっ...



奥まで絞りだして
上げますね♡



あらあら...
すごい汚れてしまっ
ましたね...♡

私のお口でお掃除
させてもらいますね♡

こんなに濃い
精液を出すなんて
そんなによかったんですね♡

最高に良かったよ

私もこんなに
ご主人様を感じ
れるなんて幸せです♡

フー…
フー…

精液を拭いてから
続きを再開しよう

私のお〇んこも
もうこんなにぐちゃぐちゃ
になってしまいました…

近くて見てください…

聖夜はまだこれからですよ…
充分に私を堪能させてあげます♡
ご主人様♡



ご主人様の
せいで私のお〇んこ
がドロドロになって
しまいました。

どうです?!
近くで舐めてみませんか…

にや



わ…わかった…

これがエクシアの…
お〇んこ…
なんて綺麗なんだ…

…ちゅ…っ
んっ…はあ…っ
ちゅっ…べっろ…

エクシアの膣が
感じてるのがわかる



だ…っダメ…っ
私の中にどんどん
忍び込んでくる…

…あうっ…そこは…

私のダメな所を
ピンポイントに
当ててくる…どうして
わかるの…

ご主人様そこは
ダメです…

ご主人様の舌が
私の膣を味わうように
舐めまわしてくる

だめ…ダメ…ダっ…めえ…

そんなに私の膣に
入らないでえ…
イっちゃうから♡

…あつ…だめ…っ
ダメですっ…ほんとうっ…に
私の臆をそんなにき乱さないで
ください…ご主人様♥

あゝ♥

あゝ♥

イグう

びっ♥
びっ♥

架

わたしの内側から
止めどなく溢れてくる…

…きもっち…

気持ちいいよっ…

きちやう…きちやうよ
っもう…もうらっ…めっ…
わたしがおかしくなっちやい
ますよ…♥

ダメっ…だ
もう…我慢できそう…にッ…

はあ…はあ…

いぐってこんな感じなんだ…



っ…はあ…
すごく
気持ちよかったです

濡れてきたし
そろそろ
入れるぞ

はっ…はいっ



彼女の体温を
肌で感じながら
ペニスを
彼女の陰部に
押し当てる

いれるぞ

はい…
きもください♡

ウウウ

…きつきつい…
だが…内側からふれる
興奮を押さえきれない



よし…いくぞ

あっ…んっ
エクシアの膣と
繋がっている…

あっ…ちよ…っん
まっ…あ…んん
はっ…んくう…

ア…

すごい…
これがエクシアの膣か
バンバンとリズムを
刻むにつれて
オレのペニスが
とろけてしまいそうだ…

激しかったピストンも
しだいにゆっくりになり
彼女の膣の収縮にあわせて
ペニスが同調するように
脈を打つ…

どうですか…
わたしのおま〇こは…

すごく
いいよ本当に…

そうですか…
よかったです…
私の深い所まで
存分に味わってください。

…っあっん…
いっぱい腰を動かして
いいですからね♥

ああ…
わかった…

ペニスが深いところを
つくたびに彼女の
声色が高くなっている
それに合わせて俺の
吐息も混ざる



オレは勢い良く
腰を動かした

あん♡

アハ

…あっただだめっ♡

あつふれ…ちやうよ…
こわ…つれちやうよ…

んはま♡

アハ

あは♡

はっ…あ…んっ
あう…あん
いっ…いいよ…

まが♡あ♡あ♡

きもっ…ち…っ
いーいっよ…♡



まだだめだよ
俺と一緒に行くまで
許さないぞ

どんどんペースを上げていくぞ

ギューッ!

えっちよっつと
まってまだ
準備が…

あっあ…
いいぞ…これ…

ズンズン

はあ…ふう…ん♡
わたしのおま○この
奥がズンズンと
きもっ…ちっ…よく
なってくる♡

…あっん
私はどこまでも
ついていきますよ

あッ♡

あッ♡

はッ

はッ!

そんなにエッチに腰を動かすからご主人様のカタチ覚えちゃってるよ…

はらって…
き…て…

あん…う
だ…だめ…
だめな…の…っ♡

エクシア…
すきっ…だーっ

好きだっ…

私も大好きですよ
ご主人様♡



わたしのおま〇こも
擦り切れそうです…

おちんちん
気持ちよすぎます



だ…ダメだ…

もっ…もう

オレももう限界に近い
受け止めてくれ…



身体が敏感になっていて
ペニスが痺れてきた



わったし…もうっ…
いっちゃ…いそう…です♡

はっ♡

はっ♡



おんっ!!
おんっ!!

ご主人様のおちんちんが
限界なのわかります。

きてください…
わたしの膣に♡

いっせー!!

あゝもう
ダメ…
ん…

エクシア射精ぞ!!

射精してください
私の膣に勢いよく…
びゅっびゅっってー♡

あゝ
あゝ

っあ…あ…

びゅっ!!

射精る

…あつきってる…
きてます…わ…たし…の
なかにご主人様の熱い精液が…

す…ごいっ
熱い火傷しそう…

とぴゅとぴゅって
うれしそうに鳴いています♡

ふっふっ♡
ふっふっ♡

あ♡
あ♡
あ♡

おん♡
おん♡!!
おん♡



そうですか…
よかったです…

どうでしたか
ご主人様
私のご奉仕は!?

すごい良かったぞ



これは聖夜の夢なのか…



これからもいっしょに
変わらずに一緒に過ごしましょうね

それとも
夜はまだまだ長いですから…

もし夢なら
もう少しだけ覚めない
ようにサンタさんをお願いしよう。